

厚生労働科学研究費（長寿科学政策研究事業）  
分担研究報告書

既存コホートの観察継続による訪問看護提供による効果、サービスの充実度の評価(研究3)

研究代表者 角川由香 東京大学大学院医学系研究科 助教  
研究分担者 高岡茉奈美 東京大学大学院医学系研究科 特任助教  
山本則子 東京大学大学院医学系研究科 教授  
新田國夫 医療法人社団つくし会 理事長 / 新田クリニック 院長

研究要旨

本研究では、2019年に開始した「地域で暮らす利用者・家族に対する訪問看護の効果を評価すること」を目的とした前向きコホート調査の48カ月後調査を実施した。訪問看護事業所、居宅介護支援事業所における75歳以上の利用者・家族への質問紙調査、事業所情報、職員情報（訪問看護師・介護支援専門員）、利用者情報に関する質問紙調査を縦断的に実施し、訪問看護の効果を検討した。

訪問看護利用群は、非利用群に比べ、看取り・ターミナル期の利用者、医療処置を要する利用者が多かった。また、訪問看護利用群は、非利用群に比べ、48カ月後調査時点における問題事象発生合計数が高かった。訪問看護利用群は、非利用群に比べて状態像が悪い一方、全身状態は数年間差がなく経過していることから、要介護高齢者への訪問看護提供は、全身状態の悪化予防につながる可能性が見出された。

A. 研究目的・背景

訪問看護は、地域包括ケアシステムにおける重要な医療資源の一つであり、その更なる発展が期待されている。訪問看護の発展を支える上で、質評価や質保証の枠組みを開発し、普及することが重要である。看護は対象者を全人的に捉え、そのウェルビーイングを追求するヒューマンサービスであり、多様な側面にアプローチする性質上、定量的な質評価が困難とされてきた。特に高齢者に対する訪問看護実践では、加齢により基本的に機能の低下してゆくことが予測される中で「良いケア」を同定しなければならない。さらに、機能低下が避け

られないとしても、人としての尊厳や生活・生命の質（QOL）を保証してゆくことが重視され、疾患・症状管理に留まらない広範な領域への効果を検討する必要がある。

地域で暮らす利用者・家族に対する訪問看護の効果を検討するため、2019年より前向きコホート調査「ケア効果の可視化プロジェクト（VENUSプロジェクト）」を継続しており、令和5年度は48カ月後調査を実施した。本プロジェクトでは、全国の訪問看護事業所、居宅介護支援事業所における75歳以上の利用者・家族への質問紙調査、事業所情報、職員情報（訪問看護師・

介護支援専門員)、利用者情報に関するウェブ調査を縦断的に実施している。訪問看護の効果を実証化するため、本プロジェクト内で開発した質指標 (VENUS質指標) を用いている。

したがって、本研究の目的は、訪問看護利用群と非利用群における48カ月後時点の在宅療養高齢者の状態像、問題事象発生割合・合計数を比較し、訪問看護の効果を検討することとした。

## B. 研究方法

### 1. 対象

訪問看護事業所19件、居宅介護支援事業所29件における75歳以上の利用者・家族を対象とした。

### 2. 調査方法

#### 1) 調査期間およびデータ収集方法

本研究は、2019年に開始した在宅療養高齢者への訪問看護の効果を検討することを目的とした前向きコホート調査 (ケア効果

の可視化プロジェクト: VENUSプロジェクト) <sup>1),2)</sup>における、48カ月後調査の継続によりデータを収集した。

VENUSプロジェクトでは、2019年9月から2023年3月までに、管理者・訪問看護師・介護支援専門員には全7回 (初回、1カ月後、3カ月後、6カ月後、12カ月後、24カ月後、36カ月後)、利用者・家族には全5回 (初回、3カ月後、12カ月後、24カ月後、36カ月後) の質問紙調査を実施した。調査期間中に利用者のサービス中断・終了されても、死亡が確認されるまで調査は継続された。

令和5年度においては、2023年9月から2024年3月にかけて、48カ月後時点の訪問看護事業所・居宅介護支援事業所の管理者への質問紙調査 (事業所・管理者属性)、職員への質問紙調査 (職員属性・利用者属性・VENUS質指標)、利用者・家族への質問紙調査を実施した (表1)。

48カ月後調査においては、36カ月後調査で死亡が確認された場合、36カ月後調査・

表1. 24,36,48カ月後調査のフロー

			2019年 9月頃	2019年 10月頃	2020年 1月頃	2020年 3月頃	2020年 9月頃~	2021年 9月頃~	2022年 9月頃~	2023年 9月頃~
調査内容	回答者	初回調査	1カ月後	3カ月後	6カ月後	12カ月後	24カ月後	36カ月後	4年後	
ケア 提供者情報	事業所・ 管理者属性	管理者	○	-※	-※	-※	○	○	○	○
	職員属性	職員	○	-	-	-	○	○	○※	○※
利用者情報	利用者属性	職員	○	-※	-※	-※	○	○	○	○
長期ケアの 質の評価	長期ケアの 質指標	職員	○	○	○	○	○	○	○	○
	利用者・ 家族調査	利用者・ 家族	○	-	○	-	○	○	○	○

Note. ※変更があった場合のみ回答

48カ月後調査とともに中断・終了が確認された場合は、調査終了とした（表2）。

表2. 24,36,48カ月後調査の調査内容

12カ月後調査	24,36,48カ月後調査	調査内容				
		事業所・ 管理者属性	職員属性	利用者 属性	長期ケア の質指標	利用者・ 家族調査
利用中	利用中	○	○	○	○	○
	中断・終了	○	○	○	○※	×
中断・終了	利用中	○	○	○	○	○
	中断・終了	○	○	×	×	×
死亡						

Note. ※アウトカム指標のみ尋ねた

## 2) 調査内容

管理者には事業所・管理者属性、訪問看護師・介護支援専門員には職員属性・利用者属性・VENUS質指標の回答を依頼した。利用者・家族には「利用者の療養生活上の主観的満足感」「家族の基本情報」「利用者の客観的QOL評価」「利用者の療養生活における家族の安心感」の回答を依頼した（表3）。

### (1)利用者情報

年齢、事業所利用期間、直近の退院日からの期間、性別、居住形態、世帯構成、主介護者については初回調査で得た情報を用いた。主疾患、利用者の状態像、要介護度、障害高齢者日常生活自立度、介護・医療保険サービス、医療処置などは36カ月後調査時点で更新された情報を用いた。

### (2)VENUS質指標（表4）

訪問看護の効果を評価には、当教室で開発したVENUS質指標を用いた。開発したVENUS質指標は、Long-term care（長期ケア）を受けている高齢者へのケアのアウトカム・プロセスを測定できる指標であ

る。評価者は、訪問看護師や介護支援専門員などの医療・介護従事者とした。

VENUS質指標の構造は、ドメイン8領域の下位にアウトカム項目が位置づけられており、各アウトカム項目はアウトカム指標・プロセス指標を有する。ドメインは看護アセスメント・ケアをする際の枠組み、アウトカム項目は在宅療養高齢者の望ましい状態とした。各アウトカム項目を達成できていない場合を問題事象発生ありと定義し、訪問看護の効果を問題事象発生の有無で評価した。

プロセス指標のアセスメント実施割合・ケア実施割合は、各ドメイン・アウトカム項目において、実施された項目数を全項目数で割り、百分率で算出した。たとえば、アウトカム項目「社会的交流の確保」において、アセスメントが全4項目中2項目実施されていた場合は、実施されたアセスメント項目数2/全アセスメント項目数4×100=50.0%となる。全員回答必須の項目、必要時のみ回答する項目（◎）のそれぞれについて、アセスメント実施割合・ケア実施割合を算出した。

問題事象発生合計数は、0-19の範囲であり、合計数が大きいほど問題事象が多いことを示し、全身状態が悪いと考える。なお、「入院」「日常的な活動の維持」の問題事象発生については、定義の性質が異なるため（評価期間が異なる、2時点のデータにより評価する等）、除外した。なお、全6時点において、VENUS質指標に関するデータが1つでも欠落している対象者は分析から除外した。

### (3)利用者の療養生活上の主観的満足感

利用者の療養生活上の主観的満足感は、「今の生活に満足している」「安心して過ごせている」「痛みや不快感なく過ごせている」「排泄に関して困っている」「今の状況で自分の希望する生き方を実現できている」の5項目について、0（全くそう思わない）から10（とてもそう思う）の間の数値で利用者本人から回答を得た。利用者の記入が難しい場合は、家族・訪問看護師・介護支援専門員のいずれかが聞き取りにより代理記入するよう依頼した。

### (4)利用者の客観的QOL評価

利用者の客観的QOL評価は、岡山大学精神神経病態学教室老年精神疾患研究グループが開発した認知症患者の客観的QOL評価票（短縮版）を用いた<sup>3)</sup>。「楽しそうである」「食事を楽しんでいる」「訪問者に対して嬉しそうにする」「周りの人が活動するのを見て楽しんでいる」「自分から人に話しかける」「仕事やレク活動について話をする」「怒りっぽい（逆転項目）」「ものを乱暴に扱う（逆転項目）」「大声で叫んだりする（逆転項目）」の9項目について、「見られない（1点）」「まれに見られる（2点）」「ときどき見られる（3点）」「よく見られる（4点）」で回答を得た（合計得点の範囲：9-36点）。回答者は、家族・訪問看護師・介護支援専門員のいずれかとした。

### (5)利用者の療養生活における家族の安心感

利用者の療養生活における家族の安心感は、「地域のがん医療に関する安心感尺

度」<sup>4)</sup>を参考に、「療養者の受けている治療や支援に安心している」「療養者はあまり苦痛を感じないで過ごせている」「私の心配事には十分に対処してもらえている」「色々なサービスがあるので安心だ」、「安心して自宅で療養できる」の5項目を作成し、「全くそう思わない（1点）」「あまりそう思わない（2点）」「どちらでもない（3点）」「ややそう思う（4点）」「大変そう思う（5点）」の5件法で家族から回答を得た（合計得点の範囲：5-25点）。

### 3) データ分析方法

まず、初回調査、1・3・6・12・24・36・48カ月後時点の転帰について記述統計量を算出した。

次に、訪問看護利用群・非利用群における利用者の基本属性（表5）、問題事象発生割合（表6）、問題事象発生合計数（表7,図1）、アセスメント実施割合・ケア実施割合（表8）、家族の基本属性（表9）、利用者の主観的満足度（表10）、利用者の客観的QOL（表11）、家族の安心感（表12）の記述統計量をそれぞれ算出した。

訪問看護利用群と非利用群の利用者の基本属性、家族の基本属性の差を検討するため、カイ二乗検定またはマンホイットニーのU検定または独立したサンプルのt検定を用いた。

表 3. 48カ月後調査の調査枠組み

事業所情報	事業所属性	①開設主体 ②総利用者数（保険種別・要介護度別） ③前年度のサービス終了者数（理由別） ④常勤換算職員数	⑤認定看護師・専門看護師の人数 ⑥加算の届出状況 ⑦特別な医療処置等を必要とする利用者数 ⑧地域活動への参加状況 など
	管理者属性	①年齢・性別 ②就業形態 ③経験年数	④保有資格種類 ⑤認定・専門資格の有無・種類 ⑥最終学歴 など
職員情報	職員属性	①年齢・性別 ②職位・就業形態 ③経験年数	④保有資格種類・最終学歴 ⑤認定看護師資格の有無・種類 ⑥専門看護師資格の有無・種類 など
利用者情報	利用者属性	①サービス利用状況（サービス継続中・死亡・不明など）	
		①年齢・性別 ②訪問看護を使用する際の保険種別 ③居住形態・世帯構成 ④主介護者の続柄・就業状況 ⑤主疾患・副疾患	⑥要介護度・状態像・医療処置 ⑦利用開始日・直近の退院日 ⑨日常生活自立度（障害・認知症） ⑩過去1カ月の医療・介護サービス利用 ⑪過去1カ月の定期訪問以外の連絡回数など
長期ケアの質の評価	VENUS 質指標	1. 尊厳の追求 1)社会的交流の確保/孤独感の最小化 2)希望する生き方の実現 3)希望するケアの実現 4)活動制限の撤廃 2. 苦痛の最小化 5)疾患悪化予防/入院予防 6)尿路感染症予防 7)呼吸器感染症予防 8)褥瘡予防 9)呼吸困難への対処 10)疼痛への対処 3. 食生活の維持 11)栄養状態の保持	12)脱水予防 4. 排泄活動の維持 13)排泄活動の維持 5. 身体活動の維持 14)転倒転落による外傷の予防 15)日常的な活動の維持 16)寝床以外での活動の維持 6. 睡眠の確保 17)生活に支障がない睡眠の確保 7. 認知機能低下による生活障がい 18)認知機能低下による生活障がいの最小化 8. 家族のウェルビーイングの追求 19)家族のウェルビーイングの追求
	家族調査 利用者・	1. 利用者の療養生活上の主観的満足感 2. 利用者の客観的 QOL 評価	3. 家族の基本情報 4. 家族の療養生活に関する安心感

表4. VENUS質指標

ゴードンの機能的健康パターン	VENUS 質指標 ドメイン	VENUS 質指標 アウトカム項目	アウトカム指標	プロセス指標	
				アセスメント	ケア
1. 健康知覚/健康管理	(2) 苦痛の最小化	⑤疾患悪化予防/入院予防	2	7	8
		⑥尿路感染症予防	1	4	3
		⑦呼吸器感染症予防	1	6 (2)	6
		⑧褥瘡予防	1	4 (1)	5 (3)
		⑨呼吸困難への対処	1	1 (6)	0 (5)
		⑩疼痛への対処	1	1 (4)	0 (6)
2. 栄養/代謝	(3) 食生活の維持	⑪栄養状態の保持	1	8	2 (3)
		⑫脱水予防	1	4	2
3. 排泄	(4) 排泄行動の維持	⑬排泄活動の維持	1	3 (7)	9
4. 活動/運動	(5) 身体活動の維持	⑭転倒転落による外傷の予防	1	6	7
		⑮日常的な活動の維持	1	0	7
		⑯寝床以外での活動の維持	1	3	3
5. 睡眠/休息	(6) 睡眠の確保	⑰生活に支障のない睡眠の確保	1	6	0 (3)
6. 認知/知覚	(7) 認知機能低下による生活障がい最小化	⑱認知機能低下による生活障がい最小化	1	5	0 (5)
7. 自己知覚/自己概念	(1) 尊厳の保持	①社会的交流の確保/孤独感の最小化	2	4	0 (3)
8. 役割/関係		②希望する生き方の実現	1	4	6
9. 性(セクシュアリティ)/生殖		③希望するケアの実現	1	5	5
10. コーピング/ストレス耐性		④活動制限の撤廃	1	0 (3)	0 (2)
11. 価値/信念					
	(8) 家族のウェルビーイングの追求	⑲家族のウェルビーイングの追求	1	7	3
<b>設問数</b>			21	78 (23)	66 (30)

Note. プロセス指標の ( ) 内は必要な場合のみ回答する設問数  
 介護支援専門員が評価者の場合、アウトカム指標のみ

訪問看護利用群と非利用群の問題事象発生割合の差を検討するため、カイ二乗検定を用いた。各調査時点・両群における問題事象発生合計数の平均値の差を検討するため、独立したサンプルのt検定を用いた。

適切と考えられる看護実践プロセスの実施状況（アセスメント・ケア）を把握するため、アセスメント実施割合・ケア実施割合をアウトカム項目毎（表8-1,2）・プロセス項目毎（表8-3,4,5,6,7,8）に算出した。

利用者の主観的満足度、利用者の客観的QOL、家族の安心感の平均値の差を検討するため、独立したサンプルのt検定を用いた。

#### 4) 倫理的配慮

東京大学大学院医学系研究科・医学部倫理委員会の承認を受けて、実施された（No.2019087NI）。なお、研究参加者には、オプトアウトにて本研究への参加拒否の機会が与えられた。

### C. 研究結果

本研究では、2024年3月1日までにデータ収集が完了した48カ月後調査229名（訪問看護利用群185名、非利用群44名）について報告する。

48カ月後調査時点の転帰は、在宅継続131名、入院によりサービスを中断・修了している者32名、入所によりサービスを中断・終了している者27名、在宅死亡19名、その他の理由により中断している者は20名であった。

本研究の分析対象者は、初回調査から48

カ月後調査までのVENUS質指標を全て回答した153名（訪問看護利用群123名、非利用群30名）を対象とした。なお、訪問看護利用群においては看護師資格を持たない理学療法士や作業療法士が報告したデータを除外した。

#### (1)利用者情報（表5）

主疾患は、訪問看護利用群・非利用群ともに「認知症」が最も多く、それぞれ26名（21.1%）、15名（40.0%）であった。訪問看護利用群は、非利用群に比べ、「認知症」の割合が低かった（ $p < .001$ ）。

利用者の状態像が「看取り期・ターミナル期」の利用者は、訪問看護利用群17名（13.8%）、非利用群0名（0%）であった（ $p = 0.031$ ）。

医療処置が「なし」の利用者は、訪問看護利用群84名（67.2%）、非利用群2名（5.9%）であった（ $p < .001$ ）。

#### (2-1)問題事象発生割合（VENUS質指標 - アウトカム指標）（表6）

48カ月後調査時点において、訪問看護利用群と非利用群において問題事象発生割合の差がなかった。統計的に有意な差はないが、「活動制限の撤廃」の問題事象発生割合は、訪問看護利用群2.4%、非利用群6.7%であり、訪問看護利用群の方が低かった。

#### (2-2) 問題事象発生合計数（VENUS質指標 - アウトカム指標）（表7, 図1）

初回調査時点における問題事象発生合計数は、訪問看護利用群3.2（標準偏差2.3）、非利用群2.8（標準偏差2.3）であっ

た( $p = 0.414$ )。

48ヵ月後時点における問題事象発生合計数は、訪問看護利用群4.6(標準偏差3.2)、非利用群3.2(標準偏差2.4)であった( $p = 0.027$ )。

### (2-3)VENUS質指標-プロセス指標(表8)

全員回答必須のアセスメントのうち、全7時点において、最も実施割合が高いアセスメント領域は、「5)疾患悪化予防」

(87.4–93.9%)であった。反対に、最も実施割合が低いアセスメント領域は、「8)褥瘡予防」(24.5–37.9%)であった。

全員回答必須のケア項目のうち、最も実施割合が高いケア領域は、「19)家族のウェルビーイングの追求」(53.1–64.2%)であった。反対に、最も実施割合が低いケア領域は、「11)栄養状態の保持」(2.4–11.8%)であった。

### (3)家族の基本属性(表9)

平均年齢は69.9歳(標準偏差12.8)、男性31.1%、主介護者97.8%、利用者との続柄は実の息子・娘48.9%であった。

### (4)利用者の療養生活上の主観的満足感(表10)

利用者の療養生活上の主観的満足感の5項目は、訪問看護の利用と関連しなかった。

### (5)利用者の客観的QOL評価(表11)

利用者の客観的QOL評価(合計得点)は、訪問看護利用群では平均26.5点(標準偏差5.0)、非利用群では平均28.1点(標準偏差5.6)であった( $p = 0.239$ )。

### (6)利用者の療養生活における家族の安心

### 感(表12)

利用者の療養生活における家族の安心感(合計得点)は、訪問看護利用群では平均20.8点(標準偏差3.7)、非利用群では平均21.1点(標準偏差2.6)であった( $p = 0.743$ )。

### 考察

本研究では、2019年に開始した「地域で暮らす利用者・家族に対する訪問看護の効果の評価すること」を目的とした前向きコホート調査の48ヵ月後調査を実施した。

訪問看護利用群は、非利用群に比べ、利用者の状態像が不安定であり、医療ニーズが高かった。

各調査時点の問題事象発生合計数の比較において、初回調査から36ヵ月後調査時点までは、訪問看護利用群・非利用群の全身状態の悪化に差はなかった。48ヵ月後時点においては、訪問看護利用群の方が、非利用群に比べて問題事象発生合計数が高かった。

### D. 結論

多面的な全身状態の評価ができるVENUS質指標を用いて、訪問看護利用群と非利用群を4年間追跡した縦断データを収集した。訪問看護利用群は、非利用群に比べて状態像が悪く医療ニーズが高い一方、全身状態の悪化に差がなく数年経過していることから、要介護高齢者への訪問看護提供は、全身状態の悪化予防につながる可能性が見出された。

## 文献

- 1) 山本則子（研究代表者）. 要介護高齢者等に対する介護介入による効果検証事業. 令和2年度 厚生労働省老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業. 2021年.
- 2) Fukui C, Igarashi A, Noguchi-Watanabe M, Sakka M, Naruse T, Kitamura S, Inagaki A, Takaoka M, Yasaka T, Kobayashi H, Yamamoto-Mitani N. Development of Quality Indicators for Evaluating the Quality of Long-term Care. *Geriatrics & Gerontology International*. 2021 Feb 14.
- 3) Terada S, Oshima E, Ikeda C, Hayashi S, Yokota O, Uchitomi Y. (2015). Development and evaluation of a short version of the quality of life questionnaire for dementia. *International psychogeriatrics*, 27(1), 103-110.
- 4) Igarashi A, Miyashita M, Morita T, Akizuki N, Akiyama M, Shirahige Y, Eguchi K. (2012). A scale for measuring feelings of support and security regarding cancer care in

a region of Japan: a potential new endpoint of cancer care. *Journal of pain and symptom management*, 43(2), 218-225.

表5-1. 利用者の基本属性

	全体 n = 153		訪問看護利用群 n = 123		訪問看護非利用群 n = 30		p 値 a)
	平均 ± 標準偏差 [範囲]		平均 ± 標準偏差 [範囲]		平均 ± 標準偏差 [範囲]		
年齢	83.6 ± 6.4	[75-100]	83.5 ± 6.2	[75-100]	84.1 ± 7.1	[75-99]	0.401
当該事業所の利用期間 (日) b)	1008.2 ± 1337.4	[0-8947]	981.2 ± 1170.5	[9-8697]	1119.1 ± 1896.2	[0-8947]	0.667
直近の退院日からの期間 (日) c)	380.5 ± 370.3	[1-1500]	398.9 ± 378.1	[1-1500]	298.6 ± 331.9	[5-1130]	0.202

Note. 初回調査時点のデータを用いて算出した, a) 独立したサンプルのt検定, b) 2000年以前のデータを除外した (n = 153),

c) 訪問看護利用群 n = 71, 非利用群 n = 16

表5-2. 利用者の基本属性

		全体 n = 153 n (%)	訪問看護 利用群 n = 123 n (%)	訪問看護 非利用群 n = 30 n (%)	p 値
性別	男性	58 (37.9)	47 (38.2)	11 (36.7)	0.876 a)
居住形態	自宅	145 (94.8)	115 (93.5)	30 (100.0)	0.151 a)
世帯構成	それ以外	58 (37.9)	42 (34.1)	16 (53.3)	0.052 a)
	利用者と配偶者の夫婦二人	48 (31.4)	38 (30.9)	10 (33.3)	0.796 a)
	独居	47 (30.7)	43 (35.0)	4 (13.3)	<b>0.021 a)</b>
主介護者	子	58 (37.9)	40 (32.5)	18 (60.0)	<b>0.005 a)</b>
	配偶者	53 (34.6)	45 (36.6)	8 (26.7)	0.306 a)
	いない	28 (18.3)	27 (22.0)	1 (3.3)	<b>0.018 a)</b>
	子の配偶者	11 (7.2)	8 (6.5)	3 (10.0)	0.506 a)
	それ以外	3 (2.0)	3 (2.4)	0 (0.0)	0.388 a)
要介護度	なし (申請中など)	5 (3.3)	5 (4.1)	0 (0.0)	0.713 b)
	要支援 1	6 (3.9)	6 (4.9)	0 (0.0)	
	要支援 2	12 (7.8)	10 (8.1)	2 (6.7)	
	要介護 1	28 (18.3)	21 (17.1)	7 (23.3)	
	要介護 2	38 (24.8)	28 (22.8)	10 (33.3)	
	要介護 3	19 (12.4)	15 (12.2)	4 (13.3)	
	要介護 4	25 (16.3)	21 (17.1)	4 (13.3)	
	要介護 5	20 (13.1)	17 (13.8)	3 (10.0)	
障害高齢者 日常生活自立度	生活自立 J	36 (23.5)	31 (25.2)	5 (16.7)	0.245 b)
	準寝たきり A	62 (40.5)	47 (38.2)	15 (50.0)	
	寝たきり B	32 (20.9)	25 (20.3)	7 (23.3)	
	寝たきり C	22 (14.4)	20 (16.3)	2 (6.7)	
	不明	1 (0.7)	0 (0.0)	1 (3.3)	
認知症高齢者 日常生活自立度	なし	18 (11.8)	17 (13.8)	1 (3.3)	0.341 b)
	I	35 (22.9)	30 (24.4)	5 (16.7)	
	II	38 (24.8)	29 (23.6)	9 (30.0)	
	III	30 (19.6)	22 (17.9)	8 (26.7)	
	IV	29 (19.0)	22 (17.9)	7 (23.3)	
	M	3 (2.0)	3 (2.4)	0 (0.0)	
利用者の状態像	病態・症状の安定期	101 (66.0)	77 (62.6)	24 (80.0)	0.071 a)
	病態・症状の不安定期	35 (22.9)	29 (23.6)	6 (20.0)	0.676 a)
	看取り期・ターミナル期	17 (11.1)	17 (13.8)	0 (0.0)	<b>0.031 a)</b>

Note. 性別・居住形態・世帯構成・主介護者については初回調査時点のデータを用いた, a) カイ二乗検定,

b) マンホイットニーのU検定

表5-3. 利用者の基本属性

	全体 n = 153 n(%)	訪問看護 利用群 n = 123 n(%)	訪問看護 非利用群 n = 30 n(%)	p 値 a)
医療処置(複数回答可)				
なし	86 (56.2)	84 (67.2)	2 (5.9)	<.001
主疾患				
認知症	38 (24.8)	26 (21.1)	12 (40.0)	<b>0.032</b>
心不全	25 (16.3)	20 (16.3)	5 (16.7)	0.957
脳血管疾患	19 (12.4)	13 (10.6)	6 (20.0)	0.160
がん	15 (9.8)	14 (11.4)	1 (3.3)	0.184
神経難病	9 (5.9)	7 (5.7)	2 (6.7)	0.839
消化器疾患	9 (5.9)	7 (5.7)	2 (6.7)	0.839
COPD (肺気腫・慢性気管支炎を含む)	7 (4.6)	7 (5.7)	0 (0.0)	0.181
筋骨格系疾患 (頸部脊柱管狭窄症・脊椎損傷)	6 (3.9)	6 (4.9)	0 (0.0)	0.217
その他	5 (3.3)	5 (4.1)	0 (0.0)	0.262
糖尿病	4 (2.6)	3 (2.4)	1 (3.3)	0.783
腎機能障害 (腎不全・腎炎)	4 (2.6)	4 (3.3)	0 (0.0)	0.317
心不全以外の循環器系疾患 (解離性大動脈瘤・高血圧症)	3 (2.0)	3 (2.4)	0 (0.0)	0.388
肺炎	3 (2.0)	3 (2.4)	0 (0.0)	0.388
大腿骨頸部骨折	2 (1.3)	1 (0.8)	1 (3.3)	0.276
精神疾患 (認知症除く)	1 (0.7)	1 (0.8)	0 (0.0)	0.620
自己免疫疾患 (多発性筋炎・リウマチ・強皮症)	1 (0.7)	1 (0.8)	0 (0.0)	0.620
難治性皮膚潰瘍 (褥瘡・慢性下肢潰瘍・皮膚病)	1 (0.7)	1 (0.8)	0 (0.0)	0.620
大腿骨頸部骨折以外の骨折 (腰椎圧迫骨折・仙骨骨折)	1 (0.7)	1 (0.8)	0 (0.0)	0.620

Note. a) カイ二乗検定

表6-1. 問題事象発生割合の推移 (VENUS質指標 - アウトカム指標)

	初回調査			1カ月後			3カ月後			6カ月後		
	訪問看護 利用群 (n=123)	訪問看護 非利用群 (n=30)	p値	訪問看護 利用群 (n=123)	訪問看護 非利用群 (n=30)	p値	訪問看護 利用群 (n=123)	訪問看護 非利用群 (n=30)	p値	訪問看護 利用群 (n=123)	訪問看護 非利用群 (n=30)	p値
	n (%)	n (%)		n (%)	n (%)		n (%)	n (%)		n (%)	n (%)	
<b>ドメイン1：尊厳の追及</b>												
1-1) 社会的交流の確保	76 (61.8)	13 (43.3)	0.066	65 (52.8)	13 (43.3)	<b>0.35</b>	69 (56.1)	7 (23.3)	<b>0.001</b>	71 (57.7)	16 (53.3)	0.663
1-2) 社会的交流の確保-孤独感	17 (13.8)	5 (16.7)	0.690	20 (16.3)	3 (10.0)	0.390	13 (10.6)	2 (6.7)	0.519	18 (14.6)	0 (0.0)	0.026
2) 希望する生き方の実現	9 (7.3)	3 (10.0)	0.624	7 (5.7)	2 (6.7)	0.839	10 (8.1)	1 (3.3)	0.362	13 (10.6)	3 (10.0)	0.927
3) 希望するケアの実現	27 (22.0)	11 (36.7)	0.094	26 (21.1)	12 (40.0)	<b>0.032</b>	25 (20.3)	12 (40.0)	<b>0.024</b>	30 (24.4)	7 (23.3)	0.904
4) 活動制限の撤廃	5 (4.1)	1 (3.3)	0.853	2 (1.6)	0 (0.0)	0.482	4 (3.3)	1 (3.3)	0.982	2 (1.6)	0 (0.0)	0.482
<b>ドメイン2：苦痛の最小化</b>												
5-1) 疾患悪化予防-疾患悪化	14 (11.4)	4 (13.3)	0.766	6 (4.9)	4 (13.3)	0.093	13 (10.6)	4 (13.3)	0.666	21 (17.1)	3 (10.0)	0.340
5-2) 疾患悪化予防-過去30日間の入院 a)	9 (7.3)	3 (10.0)	0.624	3 (2.4)	2 (6.7)	0.243	6 (4.9)	3 (10.0)	0.285	8 (6.5)	1 (3.3)	0.508
6) 尿路感染症予防	3 (2.4)	0 (0.0)	0.388	4 (3.3)	0 (0.0)	0.317	7 (5.7)	0 (0.0)	0.181	5 (4.1)	1 (3.3)	0.853
7) 呼吸器感染症予防	1 (0.8)	0 (0.0)	0.620	0 (0.0)	1 (3.3)	0.042	3 (2.4)	1 (3.3)	0.783	2 (1.6)	0 (0.0)	0.482
8) 褥瘡予防	18 (14.6)	6 (20.0)	0.469	10 (8.1)	3 (10.0)	0.742	15 (12.2)	3 (10.0)	0.738	12 (9.8)	4 (13.3)	0.566
9) 呼吸困難への対処	3 (2.4)	0 (0.0)	0.388	2 (1.6)	0 (0.0)	0.482	5 (4.1)	2 (6.7)	0.541	2 (1.6)	0 (0.0)	0.482
10) 疼痛への対処	19 (15.4)	2 (6.7)	0.210	12 (9.8)	4 (13.3)	0.566	9 (7.3)	4 (13.3)	0.289	9 (7.3)	1 (3.3)	0.429
<b>ドメイン3：食生活の維持</b>												
11) 栄養状態の保持	11 (8.9)	4 (13.3)	0.468	4 (3.3)	5 (16.7)	<b>0.005</b>	12 (9.8)	2 (6.7)	0.599	10 (8.1)	2 (6.7)	0.789
12) 脱水の予防	5 (4.1)	0 (0.0)	0.262	3 (2.4)	0 (0.0)	0.388	5 (4.1)	0 (0.0)	0.262	4 (3.3)	0 (0.0)	0.317
<b>ドメイン4：排泄活動の維持</b>												
13) 排泄活動の維持	72 (58.5)	15 (50.0)	0.397	64 (52.0)	13 (43.3)	0.393	70 (56.9)	15 (50.0)	0.495	74 (60.2)	16 (53.3)	0.496
<b>ドメイン5：身体活動の維持</b>												
14) 転倒転落による外傷の予防	10 (8.1)	6 (20.0)	0.057	0 (0.0)	1 (3.3)	0.042	4 (3.3)	1 (3.3)	0.982	4 (3.3)	2 (6.7)	0.388
15) 日常的な活動の維持 b)	N.A.	N.A.	N.A.	21 (18.4)	10 (34.5)	0.061	25 (22.1)	10 (33.3)	0.204	23 (20.7)	9 (31.0)	0.239
16) 寝床以外の活動の維持	13 (10.6)	0 (0.0)	0.063	14 (11.4)	3 (10.0)	0.829	15 (12.2)	1 (3.3)	0.155	17 (13.8)	3 (10.0)	0.578
<b>ドメイン6：睡眠の確保</b>												
17) 生活に支障のない睡眠の確保	49 (39.8)	6 (20.0)	0.042	29 (23.6)	3 (10.0)	0.101	34 (27.6)	5 (16.7)	0.216	37 (30.1)	8 (26.7)	0.713
<b>ドメイン7：認知機能低下による生活障がい最小化</b>												
18) 認知機能低下による生活障がいの最小化	34 (27.6)	4 (13.3)	0.104	20 (16.3)	3 (10.0)	0.390	20 (16.3)	7 (23.3)	0.362	21 (17.1)	6 (20.0)	0.706
<b>ドメイン8：家族のウェルビーイングの追求</b>												
19) 家族のウェルビーイングの追求	9 (7.3)	5 (16.7)	0.111	8 (6.5)	1 (3.3)	0.508	6 (4.9)	5 (16.7)	0.025	13 (10.6)	5 (16.7)	0.353

Note. カイ二乗検定, a) 初回時点では過去30日間の入院、12・24・36・48カ月時点では過去1年間の有無を尋ねた, b) 2地点のデータを用いて算出するため、初回調査はデータなし、欠損値は除外した

表6-2. 問題事象発生割合の推移 (VENUS質指標 - アウトカム指標)

	12カ月後			24カ月後			36カ月後			48カ月後		
	訪問看護 利用群	訪問看護 非利用群	p値	訪問看護 利用群	訪問看護 非利用群	p値	訪問看護 利用群	訪問看護 非利用群	p値	訪問看護 利用群	訪問看護 非利用群	p値
	(n=123)	(n=30)		(n=123)	(n=30)		(n=123)	(n=30)		(n=123)	(n=30)	
	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)				
<b>ドメイン1：尊厳の追及</b>												
1-1) 社会的交流の確保	72 (58.5)	14 (46.7)	0.240	69 (56.1)	14 (46.7)	0.353	77 (62.6)	13 (43.3)	0.055	77 (62.6)	14 (46.7)	0.111
1-2) 社会的交流の確保-孤独感	17 (13.8)	3 (10.0)	0.578	21 (17.1)	3 (10.0)	0.340	21 (17.1)	4 (13.3)	0.619	31 (25.2)	3 (10.0)	0.073
2) 希望する生き方の実現	7 (5.7)	3 (10.0)	0.392	10 (8.1)	3 (10.0)	0.742	10 (8.1)	2 (6.7)	0.789	15 (12.2)	3 (10.0)	0.738
3) 希望するケアの実現	32 (26.0)	7 (23.3)	0.762	31 (25.2)	12 (40.0)	0.106	33 (26.8)	8 (26.7)	0.986	36 (29.3)	8 (26.7)	0.778
4) 活動制限の撤廃	0 (0.0)	0 (0.0)	N.A	1 (0.8)	2 (6.7)	<b>0.038</b>	8 (6.5)	0 (0.0)	0.151	3 (2.4)	2 (6.7)	0.243
<b>ドメイン2：苦痛の最小化</b>												
5-1) 疾患悪化予防-疾患悪化	12 (9.8)	1 (3.3)	0.258	21 (17.1)	2 (6.7)	0.153	17 (13.8)	2 (6.7)	0.287	32 (26.0)	5 (16.7)	0.284
5-2) 疾患悪化予防-過去30日間の入院 a)	20 (16.3)	7 (23.3)	0.362	19 (15.4)	4 (13.3)	0.771	27 (22.0)	6 (20.0)	0.816	22 (17.9)	8 (26.7)	0.277
6) 尿路感染症予防	3 (2.4)	0 (0.0)	0.388	5 (4.1)	2 (6.7)	0.541	8 (6.5)	0 (0.0)	0.151	12 (9.8)	1 (3.3)	0.258
7) 呼吸器感染症予防	1 (0.8)	0 (0.0)	0.620	3 (2.4)	1 (3.3)	0.783	5 (4.1)	1 (3.3)	0.853	10 (8.1)	2 (6.7)	0.789
8) 褥瘡予防	24 (19.5)	3 (10.0)	0.220	18 (14.6)	3 (10.0)	0.508	24 (19.5)	5 (16.7)	0.721	31 (25.2)	7 (23.3)	0.832
9) 呼吸困難への対処	2 (1.6)	1 (3.3)	0.545	4 (3.3)	2 (6.7)	0.388	3 (2.4)	0 (0.0)	0.388	14 (11.4)	0 (0.0)	0.053
10) 疼痛への対処	9 (7.3)	0 (0.0)	0.127	17 (13.8)	3 (10.0)	0.578	14 (11.4)	2 (6.7)	0.449	24 (19.5)	0 (0.0)	0.008
<b>ドメイン3：食生活の維持</b>												
11) 栄養状態の保持	8 (6.5)	1 (3.3)	0.508	12 (9.8)	3 (10.0)	0.968	18 (14.6)	4 (13.3)	0.856	31 (25.2)	7 (23.3)	0.832
12) 脱水の予防	0 (0.0)	1 (3.3)	0.042	2 (1.6)	1 (3.3)	0.545	6 (4.9)	0 (0.0)	0.217	20 (16.3)	2 (6.7)	0.179
<b>ドメイン4：排泄活動の維持</b>												
13) 排泄活動の維持	71 (57.7)	14 (46.7)	0.274	69 (56.1)	17 (56.7)	0.955	75 (61.0)	14 (46.7)	0.154	74 (60.2)	18 (60.0)	0.987
<b>ドメイン5：身体活動の維持</b>												
14) 転倒転落による外傷の予防	7 (5.7)	4 (13.3)	0.146	6 (4.9)	3 (10.0)	0.285	11 (8.9)	5 (16.7)	0.215	15 (12.2)	2 (6.7)	0.388
15) 日常的な活動の維持 b)	29 (25.7)	11 (37.9)	0.190	35 (31.8)	13 (43.3)	0.239	47 (41.6)	0 (0.0)	N.A	40 (37.7)	9 (32.1)	0.585
16) 寝床以外の活動の維持	21 (17.1)	1 (3.3)	0.054	16 (13.0)	3 (10.0)	0.654	23 (18.7)	3 (10.0)	0.255	27 (22.0)	2 (6.7)	0.055
<b>ドメイン6：睡眠の確保</b>												
17) 生活に支障のない睡眠の確保	31 (25.2)	8 (26.7)	0.869	44 (35.8)	14 (46.7)	0.270	40 (32.5)	15 (50.0)	0.074	52 (42.3)	7 (23.3)	0.056
<b>ドメイン7：認知機能低下による生活障がい最小化</b>												
18) 認知機能低下による生活障がいの最小化	27 (22.0)	4 (13.3)	0.292	31 (25.2)	7 (23.3)	0.832	36 (29.3)	6 (20.0)	0.308	42 (34.1)	7 (23.3)	0.255
<b>ドメイン8：家族のウェルビーイングの追求</b>												
19) 家族のウェルビーイングの追求	9 (7.3)	4 (13.3)	0.289	9 (7.3)	5 (16.7)	0.111	17 (13.8)	8 (26.7)	0.088	23 (18.7)	7 (23.3)	0.567

Note. カイ二乗検定, a) 初回時点では過去30日間の入院、12・24・36・48カ月時点では過去1年間の有無を尋ねた, b) 2地点のデータを用いて算出するため、初回調査はデータなし、欠損値は除外した

表7. 問題事象発生合計数（VENUS質指標 - アウトカム指標）

	n (%)	初回		1か月後		3か月後		6か月後		12か月後		24か月後		36か月後		48か月後	
		平均値	標準偏差														
訪問看護利用群	123 (80.4)	3.2	±2.3	2.4	±1.8	2.8	±1.8	3.0	±1.9	2.9	±1.9	3.2	±2.2	3.6	±2.3	4.6	±3.2
非利用群	30 (19.6)	2.8	±2.3	2.4	±1.9	2.4	±2.2	2.6	±2.0	2.3	±1.6	3.3	±3.3	3.1	±2.9	3.2	±2.4
p値 a)		0.414		0.913		0.405		0.310		0.137		0.733		0.260		0.027	

Note. a) 独立したサンプルのt検定

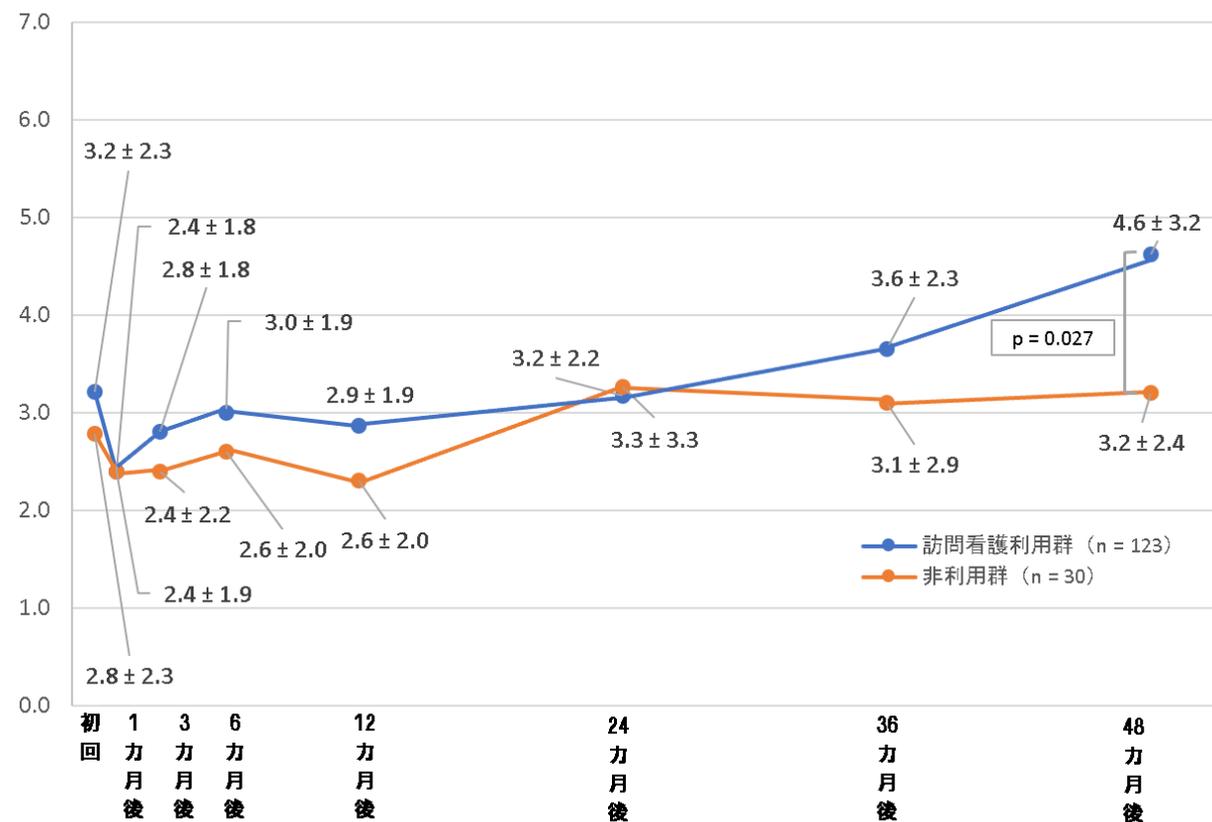


図1. 問題事象発生合計数の推移（VENUS質指標 - アウトカム指標）

Note. 訪問看護利用群・非利用群における問題事象発生合計数の平均値の差は独立したサンプルのt検定, 全6時点において、データが1つでも欠落している対象者は分析から除外した

表8-1. アセスメント・ケア実施割合 (VENUS質指標 - プロセス指標)

ドメイン1. 尊厳の追求	初回調査			1カ月調査			3カ月調査			6カ月調査		
アウトカム項目1) 社会的交流の確保/孤独感の最小化	平均値(%)	標準偏差	範囲									
アセスメント実施割合	51.6	38.2	0 - 100	57.9	38.9	0 - 100	63.0	36.8	0 - 100	59.1	41.2	0 - 100
ケア実施割合◎	18.4	24.9	0 - 100	20.0	23.4	0 - 100	20.7	25.8	0 - 100	21.8	30.0	0 - 100
アウトカム項目2) 希望する生き方の実現												
アセスメント実施割合	64.6	34.0	0 - 100	72.6	34.1	0 - 100	71.5	34.4	0 - 100	69.7	37.4	0 - 100
ケア実施割合	46.1	29.1	0 - 100	46.5	32.9	0 - 100	50.7	34.0	0 - 100	47.8	33.9	0 - 100
アウトカム項目3) 希望するケアの実現												
アセスメント実施割合	55.6	35.1	0 - 100	61.3	36.7	0 - 100	62.3	37.5	0 - 100	65.2	37.1	0 - 100
ケア実施割合	50.1	35.4	0 - 100	51.4	37.6	0 - 100	51.9	37.1	0 - 100	50.7	38.1	0 - 100
アウトカム項目4) 活動制限の撤廃												
アセスメント実施割合◎	75.0	50.0	0 - 100	100.0	.	100 - 100	66.7	57.7	0 - 100	0.0	.	0 - 0
ケア実施割合◎	75.0	50.0	0 - 100	100.0	.	100 - 100	66.7	57.7	0 - 100	0.0	.	0 - 0
ドメイン2. 苦痛の最小化												
アウトカム項目5) 疾患予防/入院予防												
アセスメント実施割合	87.4	20.5	0 - 100	89.4	19.2	0 - 100	89.9	18.8	0 - 100	89.9	18.1	0 - 100
ケア実施割合	39.3	26.8	0 - 100	38.6	27.5	0 - 100	39.6	29.0	0 - 100	43.2	28.1	0 - 100
アウトカム項目6) 尿路感染症予防												
アセスメント実施割合	38.6	31.2	0 - 100	45.1	30.0	0 - 100	47.4	30.2	0 - 100	48.4	29.3	0 - 100
ケア実施割合	43.6	38.7	0 - 100	51.5	40.8	0 - 100	50.4	39.2	0 - 100	52.0	39.6	0 - 100
アウトカム項目7) 呼吸感染症予防												
アセスメント実施割合	53.7	39.6	0 - 100	58.9	39.2	0 - 100	57.9	38.8	0 - 100	59.9	40.1	0 - 100
アセスメント実施割合◎	100.0	.	100 - 100	0.0	.	0 - 0	100.0	.	100 - 100	100.0	.	100 - 100
ケア実施割合◎	24.4	25.4	0 - 100	26.8	26.2	0 - 100	28.9	26.1	0 - 100	31.2	29.0	0 - 100
アウトカム項目8) 褥瘡予防												
アセスメント実施割合	24.5	34.9	0 - 100	25.4	31.5	0 - 100	30.9	34.8	0 - 100	28.9	36.4	0 - 100
ケア実施割合	28.8	33.2	0 - 100	31.5	32.8	0 - 100	38.4	35.2	0 - 100	37.7	35.3	0 - 100
アセスメント実施割合◎	52.9	51.4	0 - 100	36.4	50.5	0 - 100	50.0	51.9	0 - 100	50.0	52.2	0 - 100
ケア実施割合◎	83.3	29.8	0 - 100	75.8	39.7	0 - 100	76.2	38.0	0 - 100	88.9	16.4	67 - 100
アウトカム項目9) 呼吸困難への対処												
アセスメント実施割合	60.7	49.1	0 - 100	61.0	49.0	0 - 100	73.2	44.5	0 - 100	72.4	44.9	0 - 100
アセスメント実施割合◎	72.0	19.3	33 - 100	15.6	32.3	0 - 100	71.7	24.3	0 - 100	70.3	26.1	0 - 100
ケア実施割合◎	44.3	27.4	0 - 100	11.1	24.9	0 - 100	50.4	27.5	0 - 100	43.5	32.8	0 - 100
アウトカム項目10) 疼痛への対処												
アセスメント実施割合	74.8	43.6	0 - 100	71.5	45.3	0 - 100	78.9	41.0	0 - 100	79.7	40.4	0 - 100
アセスメント実施割合◎	88.8	17.1	25 - 100	33.1	45.2	0 - 100	86.2	21.0	25 - 100	84.4	22.6	0 - 100
ケア実施割合◎	55.4	28.3	0 - 100	22.6	34.0	0 - 100	58.9	28.1	0 - 100	53.5	33.4	0 - 100
ドメイン3. 食生活の維持												
アウトカム項目11) 栄養状態の保持												
アセスメント実施割合	60.6	31.7	0 - 100	66.8	28.4	0 - 100	68.1	28.2	0 - 100	69.6	30.4	0 - 100
ケア実施割合	4.1	13.7	0 - 50	2.4	10.8	0 - 50	3.3	12.4	0 - 50	6.1	19.8	0 - 100
ケア実施割合◎	11.1	19.2	0 - 33	0.0	.	0 - 0	33.3	33.3	0 - 67	33.3	21.1	0 - 67
アウトカム項目12) 脱水予防												
アセスメント実施割合	59.1	38.2	0 - 100	56.1	40.3	0 - 100	56.7	38.8	0 - 100	60.2	37.6	0 - 100
ケア実施割合	56.1	45.1	0 - 100	46.7	43.3	0 - 100	48.8	45.0	0 - 100	50.0	44.4	0 - 100
ドメイン4. 排泄活動の維持												
アウトカム項目13) 排泄活動の維持												
アセスメント実施割合	50.9	33.4	0 - 100	57.7	32.2	0 - 100	55.0	31.9	0 - 100	57.5	33.4	0 - 100
アセスメント実施割合◎	65.8	24.6	0 - 100	71.0	20.5	0 - 100	70.0	23.0	0 - 100	66.5	25.2	0 - 100
ケア実施割合	38.3	31.8	0 - 100	38.4	32.7	0 - 100	43.5	32.0	0 - 100	44.0	32.9	0 - 100
ドメイン5. 身体活動の維持												
アウトカム項目14) 転倒転落による外傷予防												
アセスメント実施割合	67.8	32.8	0 - 100	74.8	32.7	0 - 100	75.1	29.8	0 - 100	74.3	31.2	0 - 100
ケア実施割合	46.8	29.8	0 - 100	49.7	28.9	0 - 100	50.2	30.1	0 - 100	51.3	32.2	0 - 100
アウトカム項目15) 日常生活活動の維持												
ケア実施割合	39.7	27.6	0 - 100	40.4	29.5	0 - 100	41.2	27.4	0 - 100	39.5	28.8	0 - 100
アウトカム項目16) 寝床以外での活動の維持												
アセスメント実施割合	68.0	41.0	0 - 100	77.5	36.8	0 - 100	77.8	35.1	0 - 100	75.3	37.2	0 - 100
ケア実施割合	52.7	44.1	0 - 100	59.3	42.6	0 - 100	61.5	41.8	0 - 100	64.8	43.2	0 - 100
ドメイン6. 睡眠の確保												
アウトカム項目17) 生活に支障のない睡眠の確保												
アセスメント実施割合	61.2	33.8	0 - 100	66.9	33.3	0 - 100	66.9	32.1	0 - 100	68.0	34.9	0 - 100
ケア実施割合◎	66.7	35.1	0 - 100	65.2	34.1	0 - 100	61.7	31.6	0 - 100	64.5	34.4	0 - 100
ドメイン7. 認知機能低下による生活障がい最小化												
アウトカム項目18) 認知機能低下による生活障がい最小化												
アセスメント実施割合	76.7	28.8	0 - 100	82.0	27.3	0 - 100	79.8	29.1	0 - 100	82.0	29.6	0 - 100
ケア実施割合◎	54.6	26.3	0 - 100	61.3	27.7	20 - 100	51.8	26.5	0 - 100	69.0	22.0	20 - 100
ドメイン8. 家族のウェルビーイングの追求												
アウトカム項目19) 家族のウェルビーイングの追求												
アセスメント実施割合	50.8	36.4	0 - 100	62.0	36.8	0 - 100	59.7	36.0	0 - 100	61.0	38.2	0 - 100
ケア実施割合	55.8	41.5	0 - 100	56.4	39.8	0 - 100	58.3	40.6	0 - 100	53.7	42.2	0 - 100

Note. ◎は必要時のみ回答

表8-2. アセスメント・ケア実施割合 (VENUS質指標 - プロセス指標)

ドメイン1. 尊厳の追求	12カ月調査			24カ月調査			36カ月調査			48カ月調査		
アウトカム項目1) 社会的交流の確保/孤独感の最小化	平均値(%)	標準偏差	範囲	平均値(%)	標準偏差	範囲	平均値(%)	標準偏差	範囲	平均値(%)	標準偏差	範囲
アセスメント実施割合	56.0	40.8	0 - 100	54.0	39.2	0 - 100	50.6	39.2	0 - 100	59.9	39.6	0 - 100
ケア実施割合◎	21.8	27.0	0 - 100	19.9	21.5	0 - 100	24.2	27.5	0 - 100	26.3	28.7	0 - 100
アウトカム項目2) 希望する生き方の実現												
アセスメント実施割合	66.1	36.2	0 - 100	70.8	33.1	0 - 100	66.2	37.7	0 - 100	71.4	33.8	0 - 100
ケア実施割合	45.5	34.2	0 - 100	44.2	30.5	0 - 100	50.1	33.8	0 - 100	43.2	34.4	0 - 100
アウトカム項目3) 希望するケアの実現												
アセスメント実施割合	61.3	38.1	0 - 100	58.2	39.0	0 - 100	60.0	38.6	0 - 100	55.5	40.1	0 - 100
ケア実施割合	45.3	36.8	0 - 100	43.7	34.5	0 - 100	51.8	36.7	0 - 100	44.5	37.0	0 - 100
アウトカム項目4) 活動制限の撤廃												
アセスメント実施割合◎	0.0	.	0 - 0	100.0	.	100 - 100	81.0	17.8	66.7 - 100	100.0	.	100 - 100
ケア実施割合◎	0.0	.	0 - 0	50.0	.	50 - 50	28.6	48.8	0 - 100	100.0	.	100 - 100
ドメイン2. 苦痛の最小化												
アウトカム項目5) 疾患予防/入院予防												
アセスメント実施割合	91.9	19.0	0 - 100	93.9	14.5	14.3 - 100	90.9	18.9	0 - 100	88.5	21.5	0 - 100
ケア実施割合	40.2	29.7	0 - 100	44.9	28.3	0 - 100	46.3	29.4	0 - 100	38.7	28.1	0 - 100
アウトカム項目6) 尿路感染症予防												
アセスメント実施割合	49.2	31.8	0 - 100	48.1	29.2	0 - 100	47.1	28.1	0 - 100	45.7	28.4	0 - 100
ケア実施割合	48.8	41.3	0 - 100	47.8	40.5	0 - 100	54.1	37.4	0 - 100	55.3	38.7	0 - 100
アウトカム項目7) 呼吸感染症予防												
アセスメント実施割合	61.7	37.9	0 - 100	65.4	37.9	0 - 100	64.9	37.5	0 - 100	63.8	37.8	0 - 100
アセスメント実施割合◎	100.0	.	100 - 100	100.0	.	100 - 100	100.0	.	100 - 100	0.0	.	-
ケア実施割合	31.0	26.6	0 - 100	36.0	28.8	0 - 100	37.0	30.2	0 - 100	35.3	30.1	0 - 100
アウトカム項目8) 褥瘡予防												
アセスメント実施割合	31.4	37.6	0 - 100	33.1	36.3	0 - 100	37.9	38.9	0 - 100	37.5	41.5	0 - 100
ケア実施割合	36.5	37.0	0 - 100	37.0	35.9	0 - 100	45.2	35.9	0 - 100	42.6	38.7	0 - 100
アセスメント実施割合◎	26.1	44.9	0 - 100	35.3	49.3	0 - 100	28.6	46.3	0 - 100	28.6	46.9	0 - 100
ケア実施割合◎	56.5	43.2	0 - 100	56.9	46.8	0 - 100	52.4	45.4	0 - 100	64.3	46.2	0 - 100
アウトカム項目9) 呼吸困難への対処												
アセスメント実施割合	66.1	47.5	0 - 100	73.3	44.4	0 - 100	66.4	47.4	0 - 100	73.7	44.3	0 - 100
アセスメント実施割合◎	71.3	25.5	0 - 100	69.1	26.8	16.7 - 100	72.0	26.7	0 - 100	78.9	17.2	50 - 100
ケア実施割合◎	44.1	29.9	0 - 100	47.4	27.3	0 - 100	47.2	29.9	0 - 100	41.3	27.7	0 - 100
アウトカム項目10) 疼痛への対処												
アセスメント実施割合	80.2	40.0	0 - 100	75.8	43.0	0 - 100	70.5	45.8	0 - 100	76.3	42.8	0 - 100
アセスメント実施割合◎	88.7	22.2	0 - 100	83.7	26.1	0 - 100	87.7	27.1	0 - 100	86.2	21.7	0 - 100
ケア実施割合◎	57.2	30.4	0 - 100	58.7	31.9	0 - 100	61.3	28.8	0 - 100	54.0	25.1	0 - 100
ドメイン3. 食生活の維持												
アウトカム項目11) 栄養状態の保持												
アセスメント実施割合	70.5	28.0	0 - 100	68.4	28.8	0 - 100	68.3	28.7	0 - 100	69.7	32.5	0 - 100
ケア実施割合	4.1	13.8	0 - 50	4.2	17.9	0 - 100	7.8	22.3	0 - 100	11.8	24.3	0 - 100
ケア実施割合◎	33.3	47.1	0 - 66.7	44.4	50.2	0 - 100	43.3	38.7	0 - 100	38.1	40.5	0 - 100
アウトカム項目12) 脱水予防												
アセスメント実施割合	60.5	37.5	0 - 100	62.3	40.9	0 - 100	65.4	39.4	0 - 100	66.4	38.4	0 - 100
ケア実施割合	54.5	45.6	0 - 100	53.8	44.5	0 - 100	59.0	45.0	0 - 100	53.3	45.0	0 - 100
ドメイン4. 排泄活動の維持												
アウトカム項目13) 排泄活動の維持												
アセスメント実施割合	56.2	33.9	0 - 100	60.3	34.1	0 - 100	62.0	32.7	0 - 100	62.7	38.1	0 - 100
アセスメント実施割合◎	66.9	25.3	0 - 100	65.2	24.5	0 - 100	61.5	26.3	0 - 85.7	59.6	26.3	0 - 85.7
ケア実施割合	39.3	31.2	0 - 100	42.9	30.7	0 - 100	44.4	32.5	0 - 100	37.0	32.1	0 - 100
ドメイン5. 身体活動の維持												
アウトカム項目14) 転倒転落による外傷予防												
アセスメント実施割合	71.6	36.0	0 - 100	72.1	34.9	0 - 100	74.3	33.5	0 - 100	64.7	36.3	0 - 100
ケア実施割合	48.3	32.9	0 - 100	51.0	32.6	0 - 100	49.3	32.7	0 - 100	41.4	31.0	0 - 100
アウトカム項目15) 日常生活活動の維持												
ケア実施割合	41.7	27.8	0 - 100	44.6	30.6	0 - 100	41.1	29.9	0 - 100	35.0	28.1	0 - 100
アウトカム項目16) 寝床以外での活動の維持												
アセスメント実施割合	76.0	37.1	0 - 100	75.0	38.2	0 - 100	71.6	40.8	0 - 100	68.9	43.0	0 - 100
ケア実施割合	61.2	43.5	0 - 100	58.3	45.2	0 - 100	59.6	42.5	0 - 100	56.6	40.7	0 - 100
ドメイン6. 睡眠の確保												
アウトカム項目17) 生活に支障のない睡眠の確保												
アセスメント実施割合	67.4	34.1	0 - 100	69.7	35.0	0 - 100	67.1	34.5	0 - 100	64.0	35.0	0 - 100
ケア実施割合◎	62.7	36.4	0 - 100	52.5	33.4	0 - 100	60.6	37.7	0 - 100	74.5	30.1	0 - 100
ドメイン7. 認知機能低下による生活障がい最小化												
アウトカム項目18) 認知機能低下による生活障がいの最小化												
アセスメント実施割合	81.0	29.4	0 - 100	81.3	30.8	0 - 100	80.0	28.5	0 - 100	76.3	34.2	0 - 100
ケア実施割合◎	61.0	19.5	20 - 100	60.9	35.7	0 - 100	62.6	24.1	0 - 100	63.2	23.3	20 - 100
ドメイン8. 家族のウェルビーイングの追求												
アウトカム項目19) 家族のウェルビーイングの追求												
アセスメント実施割合	54.3	40.9	0 - 100	57.9	40.3	0 - 100	60.2	38.9	0 - 100	57.1	41.7	0 - 100
ケア実施割合	53.2	42.1	0 - 100	60.3	41.5	0 - 100	64.2	40.0	0 - 100	53.1	42.6	0 - 100

Note. ◎は必要時のみ回答

表9. 家族の基本属性

	全体	訪問看護利用群	訪問看護非利用群	p 値
	n = 45	n = 29	n = 16	
	n(%)/平均±標準偏差 [範囲]	n(%)/平均±標準偏差 [範囲]	n(%)/平均±標準偏差 [範囲]	
年齢	69.9 ± 12.8 [41-89]	69.1 ± 13.4 [41-89]	71.3 ± 11.8 [50-89]	0.591 <sup>a)</sup>
男性	14 (31.1)	10 (34.5)	4 (25.0)	0.463 <sup>b)</sup>
主介護者である	44 (97.8)	28 (96.6)	16 (100.0)	0.453 <sup>b)</sup>
利用者との関係性				0.822 <sup>b)</sup>
実の息子・娘	22 (48.9)	14 (48.3)	8 (50.0)	
配偶者	18 (40.0)	12 (41.4)	6 (37.5)	
義理の息子・娘	4 (8.9)	2 (6.9)	2 (12.5)	
無回答	1 (2.2)	1 (3.4)	0 (0.0)	
就業状況				0.948 <sup>b)</sup>
現在就労なし、または休職中	28 (62.2)	18 (62.1)	10 (62.5)	
フルタイム	6 (13.3)	4 (13.8)	2 (12.5)	
自営業	5 (11.1)	3 (10.3)	2 (12.5)	
パートタイム	4 (8.9)	2 (6.9)	2 (12.5)	
無回答	2 (4.4)	2 (6.9)	0 (0.0)	
暮らし向き				0.324 <sup>c)</sup>
大変ゆとりがある	1 (2.2)	0 (0.0)	1 (6.3)	
ややゆとりがある	6 (13.3)	3 (10.3)	3 (18.8)	
普通	31 (68.9)	21 (72.4)	10 (62.5)	
やや苦しい	3 (6.7)	2 (6.9)	1 (6.3)	
大変苦しい	3 (6.7)	2 (6.9)	1 (6.3)	
無回答	1 (2.2)	1 (3.4)	0 (0.0)	

Note. a) 独立したサンプルのT検定, b) カイ二乗検定, c) マンホイットニーのU検定

**表10. 利用者の主観的満足感**

	全体 n = 60		訪問看護利用群 n = 41		訪問看護非利用群 n = 19		p 値 a)
	平均 ± 標準偏差 [範囲]		平均 ± 標準偏差 [範囲]		平均 ± 標準偏差 [範囲]		
1. 今の生活に満足している	7.5 ± 2.3	[1-10]	7.2 ± 2.1	[1-10]	8.0 ± 2.7	[1-10]	0.270
2. 安心して生活している	7.9 ± 2.4	[0-10]	7.6 ± 2.3	[0-10]	8.4 ± 2.7	[2-10]	0.282
3. 痛みや不快感なく過ごせている	7.0 ± 2.5	[1-10]	6.7 ± 2.5	[1-10]	7.7 ± 2.4	[2-10]	0.142
4. 排泄に関して困っている (逆転処理後)	5.3 ± 3.7	[0-10]	5.0 ± 3.5	[0-10]	6.0 ± 4.0	[0-10]	0.331
5. 今の状況で自分の希望する生き方を実現できている	6.8 ± 2.9	[0-10]	6.9 ± 2.7	[0-10]	6.8 ± 3.3	[0-10]	0.937

Note. 各項目「全くそう思わない (0点)」から「大変そう思う (10点)」で回答を得た, 得点が高いほど、満足感が高いことを示す, 「4. 排泄に関して困っている」は逆転項目であり、得点が高いほど排泄に関して困っていないことを示す, 回答欠損は除外した, a) 独立したサンプルの T 検定

**表11. 利用者の客観的QOL**

	全体 n = 79		訪問看護利用群 n = 57		訪問看護非利用群 n = 22		p 値
	n(%) / 平均 ± 標準偏差 [範囲]		n(%) / 平均 ± 標準偏差 [範囲]		n(%) / 平均 ± 標準偏差 [範囲]		
評価者							0.750 a)
家族	27 (17.6)		20 (17.5)		7 (17.9)		
訪問看護師または介護支援専門員	46 (30.1)		32 (28.1)		14 (35.9)		
無回答	6 (3.9)		5 (4.4)		1 (2.6)		
1. 楽しそうである	2.9 ± 0.8	[1-4]	2.8 ± 0.8	[1-4]	3.1 ± 0.9	[1-4]	0.293 b)
2. 食事を楽しんでいる	3.1 ± 0.9	[1-4]	3.0 ± 0.9	[1-4]	3.2 ± 1.0	[1-4]	0.423 b)
3. 身内や知り合いに会うとうれしそう	3.3 ± 0.9	[1-4]	3.2 ± 0.9	[1-4]	3.4 ± 0.9	[2-4]	0.325 b)
4. 周りの人が活動するのを見て楽しんでいる	2.6 ± 1.0	[1-4]	2.4 ± 0.9	[1-4]	3.0 ± 1.1	[1-4]	0.020 b)
5. 自分から人に話しかける	2.8 ± 1.1	[1-4]	2.8 ± 1.1	[1-4]	2.9 ± 1.2	[1-4]	0.731 b)
6. 仕事やレク活動について話す	2.1 ± 1.2	[1-4]	2.0 ± 1.1	[1-4]	2.5 ± 1.2	[1-4]	0.075 b)
7. 怒りっぽい (逆転後)	3.1 ± 1.1	[1-4]	3.1 ± 1.1	[1-4]	3.1 ± 1.1	[1-4]	0.890 b)
8. 物を乱暴に扱う (逆転後)	3.7 ± 0.8	[1-4]	3.6 ± 0.8	[1-4]	3.8 ± 0.6	[2-4]	0.172 b)
9. 大声で叫んだりする (逆転後)	3.5 ± 0.9	[1-4]	3.6 ± 0.7	[1-4]	3.1 ± 1.2	[1-4]	0.086 b)
合計得点	26.9 ± 5.2	[15-36]	26.5 ± 5.0	[15-36]	28.1 ± 5.6	[15-36]	0.239 b)

Note. 各項目「見られない (1点)」から「よく見られる (4点)」で回答を得た, 全9項目の合計得点範囲は9 - 36点, 得点が高いほど、利用者の客観的QOL評価が高いことを示す, 「7. 怒りっぽい」「8. 物を乱暴に扱う」「9. 大声で叫んだりする」は逆転項目であり、得点が高いほど「怒りっぽくない」「物を乱暴に扱っていない」「大声で叫んでいない」ことを示す, 回答欠損は除外、1つでも欠損があった場合は合計得点の算出から除外した, a) カイ二乗検定, b) 独立したサンプルの T 検定

**表12. 家族の安心感**

	全体 n = 44		訪問看護利用群 n = 28		訪問看護非利用群 n = 16		p 値 a)
	平均 ± 標準偏差 [範囲]		平均 ± 標準偏差 [範囲]		平均 ± 標準偏差 [範囲]		
療養者の受けている治療や支援に安心している	4.4 ± 0.6	[3-5]	4.4 ± 0.6	[3-5]	4.4 ± 0.6	[3-5]	0.730
療養者はあまり苦痛を感じないで過ごせている	4.1 ± 0.9	[1-5]	4.0 ± 1.0	[1-5]	4.2 ± 0.8	[3-5]	0.512
私の心配事には十分に対処してもらえている	4.1 ± 0.8	[2-5]	4.1 ± 0.9	[2-5]	4.3 ± 0.7	[3-5]	0.496
色々なサービスがあるので安心だ	4.3 ± 0.7	[3-5]	4.2 ± 0.7	[3-5]	4.4 ± 0.5	[4-5]	0.291
安心して自宅で療養できる	3.9 ± 1.0	[1-5]	4.0 ± 1.0	[2-5]	3.9 ± 1.1	[1-5]	0.784
合計得点	20.9 ± 3.3	[13-25]	20.8 ± 3.7	[13-25]	21.1 ± 2.6	[16-25]	0.743

Note. 各項目「全くそう思わない (1点)」から「大変そう思う (5点)」で回答を得た, 全5項目の合計得点範囲は5 - 25点, 得点が高いほど、利用者の療養生活における家族の安心感が高いことを示す, 回答欠損は除外、1つでも欠損があった場合は合計得点の算出から除外した, a) 独立したサンプルの T 検定